

参考資料-1

国土交通省「国土交通省所管公共事業における景観検討の基本方針(案)
(景観評価システム試行事業)」佐原広域交流拠点整備事業の景観整備方針

①当該事業における景観形成の目標像
○利根川を背景とした水郷佐原の大パノラマを感じる水辺景観づくり ○利根川との密接な関わりを継承する水辺景観づくり

②対象となる施設や空間とこれを取り巻く周辺景観との関係に対する基本的な考え方	
②-1：周辺の景観等への配慮の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 利根川の大パノラマ景観、筑波山の眺望を実感できる水辺空間づくりを図る。 自然豊かな水辺やたぬき島などの多様な景観資源を保全し、その自然環境と調和した水辺空間づくりを図る。 人工的で巨大な盛土造成による圧迫感を軽減し、水郷田園景観と調和した空間づくりを図る。
②-2：住民等の利用を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 利根川と観光拠点との結節点にふさわしい連続性のある水辺空間の形成を図る。
②-3：その他	<ul style="list-style-type: none"> 佐原ドックの利根川改修の歴史性を大切に、その保全と新しい水辺空間間としての活用を図る

③ (①と②を達成するための) 施設や空間そのものの景観整備の具体的な方針	評価の項目・尺度	予測・評価手法	
③-1：施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方	■形状 (②-1-2、②-1-3 に対応) <ul style="list-style-type: none"> 既存高水敷を活用した湿地再生エリアの形成、及びたぬき島の保全を図る 高規格堤防法面の緩傾斜化により、背後地からの盛土による圧迫感の軽減を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 広大な河川景観と調和しているか 水郷田園景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> CG等による資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
	■配置 (②-1-1、②-2、②-3 に対応) <ul style="list-style-type: none"> 建築から楽しむことのできる眺望景観を意識した居室の配置、利根川の大パノラマを感じることでできるエントランス広場の配置計画 国道 356 号からのアクセス、地域交流館～舟運船着場～湿地再生エリアの連続した動線と、統一感のあるシークエンス (移動景観) の形成を図る 堤防法面は、緩傾斜(1:5.0)の空間的連続性を図るとともに、佐原ドックとの空間的一体感の形成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな視点場として活用されているか 統一感、連続性の確保がなされているか 佐原ドックの特異な空間を活かしているか 建築による圧迫感はないか、河川景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> CGによる景観予測 模型により予測する CG (アニメーション) や模型を用いた視覚資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
③-2：細部設計、材料等選定の考え方	■水辺空間の連続性 (②-2 に対応) <ul style="list-style-type: none"> 水辺を楽しむことのできる歩行空間として、舟運船着場～佐原ドックまで統一したデザイン (ボードウォーク) とする 	<ul style="list-style-type: none"> 佐原河岸における水辺散策路としての演出効果、連続性はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> CGにより予測する CG (アニメーション) をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
	■広大な水辺空間との調和 (②-1 に対応) <ul style="list-style-type: none"> 広大な水辺景観の阻害要因とならない係留桟橋 	<ul style="list-style-type: none"> 広大な河川景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> CGにより予測する 既往事例やCG等による資料をもとに、アドバイザーを交えた検討委員会等により評価する

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建築デザイン (②-1 に対応) ・ 安定感のある屋根のデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能性の分担と施設全体構成のわかりやすさ、自然景観と調和しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模型により予測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画図 (平面・立面図) や模型をもとにアドバイザーを交えた検討委員会等により評価する
③-3 : コスト削減、費用対効果を考慮した整備の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ■ 施工時期の調整によるコスト削減 ・ 湿地再生エリアの水路等整備による発生土を高規格堤防盛土に利用できるように施工時期を調整することにより、省資源化・省コスト化を図る 			
③-4 : その他				